

授業の観察と記録 — 一事実に根ざす研究の意義 —

1 授業記録の意義

- 記録の重要性
 - ・ データをもとに、互いの主張を検証可能にする
 - ・ 記録のもとの平等
 - ・ 教育研究の科学性
- 記録がすべてか？
 - ・ 記録よりも、むしろ、具体の事実の重要性
 - ・ 記録されない事実の存在を尊重
- 事実と記述
〔潜在的事実〕 → 〔顕在的事実〕
〔データ〕 → 〔手続き〕 → 〔分析結果〕
- データの多様性
 - 1 記録1
子ども・授業者の表現 発言、作文、作品、動作など・・・
↓
授業の中にすでに含まれている
 - 2 記録2
観察者の表現 観察記録
↓
観察者の認識の作用によって生まれてくる

3 測定

測定 尺度水準 信頼性 妥当性



授業の外の世界に既にある尺度を、
その授業（子ども）にあてはめたところに、
記述が生み出される

1 ある 2 なる 3 あてはめる

○ 記録の意味

- ・ 残す と 切り取る
- ・ 客観として残される —— 主観による現象の切り取り

2 観察・記録の方法

○ 様々な観察・記録

- ・ 映像記録
- ・ 音声記録
- ・ 逐語記録
- ・ 作品、作文、ノート
- ・ 指導案、教師の作成した授業に関する資料
- ・ 観察記録

○ 観察の技法 観察の技法を身につけて、観察に臨む

- 持ち物： 観察用紙（クリップボード・画板）、
筆記用具、時計、カメラ、
観点を決めて記録する
抽出児童／生徒の動き
教師の動き
詳細に記録をとる
出来事と感じたことを区別する
時刻や周辺的事実もできるだけ漏らさず記入する

○ 観察記録の工夫

- ・ 音声記録を後から起こす場合、発言の頭の言葉だけを筆記
 - ・ 子どもの識別 → 記号を工夫
 - ・ 色、形、配置で、記録内容を区別
- 映像記録の撮影法（あくまで一般論）
- ・ 1台の場合、教室窓際前方に設置し、教師と子どもを、カメラをパンしながら撮影。
 - ・ 2台目が用意できる場合、後方に設置し前方を撮影する。

（おまけ）

○自分のための観察の方法<取り扱い注意>

観察しながら、詳細に記録をとる

↓

でも・・・

記録をとるために、授業を観察するのか？

記録は残ったけど、実感が欠如

○自分のための観察の方法<取り扱い注意>

まずは

ぼーっと見る。書かない。

教室の中や外（廊下）をうろろする。思わぬ発見。

教室の雰囲気、身体でもって浸る。リズムの共鳴。

子どもと関わる。遊ぶ。声をかける。（節度をもって）

全身で感じる（→後で言語化）

記録をとることの負の面

ビデオを撮ると・・・

事象に影響を与えるという見方もあるが、そんなことは本質的でない

残すことに意識が集中 → 今、ここ、のライブ感覚

→できれば、他の人に替わってもら・・・

観察記録にしても・・・

記録は残ったけど、実感が欠如

→ほんとうに、「おや?」、「あれれ?」と思ったことを残すようにする